

4 CIS 諸国における土地利用の動向

野部 公一*

I はじめに

ソ連は世界でもっとも土地資源に恵まれた国であった。1990年の時点でのソ連の農用地面積は6億ヘクタールを超え、耕地だけでも2億2510万ヘクタールに達していた⁽¹⁾。これは、世界の耕地の約16.7%がソ連に集中されていたことを意味した⁽²⁾。

1991年末のソ連の崩壊、1992年からの市場経済への移行は、CIS諸国における農用地の利用にも多大な変化をもたらした。第1表は、CIS諸国における農用地の動向を示したものである。同表からは、CIS諸国全体としての農用地面積が激減したことが見て取れる。

こうした農用地減少の要因およびその影響の解明は、世界の食料需給を見るうえでも重要なポイントである。以下、本稿ではおもにCIS統計委員会(Межгосударственный статистический комитет СНГ)、ロシア統計委員会(Государственный комитет РФ по статистике)、カザフスタン統計庁(Агентство РК по статистике)の資料に基づいて、この過程を考察する。なお、CIS諸国における「農用地」とは、耕地、放牧地および採草地を合計したものであり、われわれが一般に用いる概念とは異なっている⁽³⁾。このため、以下では、主に耕地を対象として考察を行うものとする。

II CIS 諸国の土地利用動向

第2表は、CIS諸国における耕地面積の推移を示したものである。同表からは、この間の動向として(1)CIS諸国の耕地面積が全体として大きく減少していること、(2)その原因は専らカザフスタン・ロシアにおける耕地面積の縮小であること、(3)アゼルバイジャン、ベラルーシ、クルグズスタン、モルドバ、トルクメニスタン、ウクライナといった諸国においては、耕地面積は逆に若干の増加が記録されていること、が見て取れる。

また、耕地面積、播種面積、穀物播種面積の比較は、CIS諸国で進行中の事態を明らかにしてくれる。

第3表は、CIS諸国における播種面積の推移を示したものである。同表からは、播種面積はトルクメニスタンを唯一の例外として、減少ないしは横ばいで推移していることが見て取れる。

一方、第4表は、第2表および第3表を基にCIS諸国のデータが完備している1992～1996年について、耕地面積および播種面積の推移を比較したものである。同表からはこの間の動向として、(1)耕地面積・播種面積とも減少を記録していること、(2)播種面積の減少ペースは耕地面積のそれを上回っているため、両者の差の拡大および耕地に占める播種面積の比率

* 専修大学

の低下が進行していること、が見て取れる。

さらに第5表は、穀物播種面積の推移を示したものである。同表からは、第3表でみたように播種面積全体は、横ばいないしは減少であるのに対して、穀物播種は、ロシア・カザフスタン・ウクライナといった穀倉地帯で明らかに減少しているが、その他諸国では、拡大の傾向があることを示している。さらに第6表は、播種面積に占める穀物の比率の推移を示したものである。同表からは、その比率はあらゆる国で横ばいないしは明白な上昇傾向にあることが確認できる。

以上のようなデータは、実際にはなにを意味するのであろうか。以下では、こうした傾向がもっとも顕著に現れているカザフスタンおよびロシアの事例を用いて、より詳細な検討を行おう。

III カザフスタンの事例

ここで、1992年以降に、カザフスタン農業が直面した事態をごく簡単に確認しておこう。

カザフスタンは、ソ連の構成共和国間分業体制の下で、穀物、食肉、羊毛の供給基地として位置づけられ、農業の発展に力が注がれた。カザフスタンは、域内のみならず、中央アジア・ザカフカース諸国・ロシア極東部に対する食料供給を担当した。この条件の下で、1960年代以降、ウズベキスタン・タジキスタン・トルクメニスタンでは、綿花栽培への専門化が著しく進展した⁽⁴⁾。また、カザフスタンの穀物はグルテン含有量が多く高品質であったため、パンの質を向上させるために、まさにソ連全土に供給された⁽⁵⁾。このため、カザフスタンには、域内の需要を大きく上回る生産力が整備された。1980年代の数字をとれば、穀物生産ではその過半が、食肉生産でも全体の五分之一が域外向けであった。このような「過剰生産力」は、ソ連が存在している限りにおいては、あくまで国内の生産力配置の問題であり、それは潜在的なものに止まっていた。

だが、ソ連の崩壊および構成共和国の独立は、過剰生産力を直ちに顕在化させた。独立後、カザフスタンには、かつて他の構成共和国に「搬出」されていた穀物・畜産物が滞留することになったのである。なぜなら、ソ連の崩壊は、「搬出」を「輸出」に変え、関税の導入その他の制度的障壁、決裁の問題等を新たに生み出し、かつての構成共和国間の経済関係をも崩壊させたからである。そして、カザフスタン自体の農産物需要が減退するもとの大量の過剰農産物の存在は、農産物の販売条件をさらに劣悪なものとした。しかも、過剰生産力顕在化は、単なる短期的な問題ではなかった。かつて穀物供給を専らカザフスタンに頼っていた諸国において、独立に伴い食料自給を目標として、一連の穀物増産策が着手されたのである。

その典型といえるのがウズベキスタンであった。先にも述べたように、1960年代以降、ウズベキスタンは、綿花生産への特化を強めた。例えば、ソ連崩壊直前の1990年のウズベキスタンにおいては、総播種面積中、綿花が43.6%を占める一方、穀物は24%でしかなかった⁽⁶⁾。また、綿花関連産業(水利施設のための建設業、綿花収穫機を製造するための農業機械工業、農薬・肥料を供給するための化学工業)の発展も著しく、ウズベキスタンは国全体が綿花生

産のために再編成された感があった⁽⁷⁾。このため、ウズベキスタンでは独立とともに、穀物自給の達成は「穀物における独立」として国家の最重要課題の一つとされたのである。

以上のことから、カザフスタンでは、農業改革と同時に、需要に対応した生産調整が強く求められることとなった。この関連で、カザフスタン農業科学アカデミー(現・農業研究ナショナル・アカデミー・センター)は、穀物播種面積で 1750 万ヘクタールまで、家畜飼養頭羽数は、牛で 700 万頭、豚で 250~300 万頭、羊・山羊で 2000~2500 万頭、家禽で 3500 万羽までそれぞれ削減することを提言した。これらは、1990 年のデータと比較すると、穀物播種面積で約 25%の減、牛で約 30%の減、豚で約 15~30%の減、羊・山羊で 30~40%の減、家禽で約 40%の減に相当した。播種面積の縮小および家畜の削減は、生産性の低い耕地の牧草地への転換と生産性の低い家畜の淘汰により行われることが予定された⁽⁸⁾。これによって、カザフスタン農業は、かつてよりも縮小されながらも高い生産性を達成することが想定されていた。

だが、生産調整は、農業の交易条件の悪化、ロシアと同様の上流企業と下流企業の二重の独占の存在、さらには農業政策転換の遅れという悪条件の下で進められた。このため、生産調整というスローガンの下では、計画的というよりは無秩序な生産の崩壊が進行した。播種面積は提言を上回る勢いで縮小したが、その実態は耕作放棄の増加であり、単位面積当たり収穫量の上昇は観察されなかった⁽⁹⁾。このことは第 7 表により明瞭に把握することができる。

IV ロシアにおける事例

以下では、CIS 諸国においてもっとも詳細な農業統計が得られるロシアを事例として、地域別の耕地・播種面積の推移を考察しよう。

ロシアにおいても生産の粗放化は、耕地面積と播種面積の差で表現される「耕作放棄地」の拡大および土壌劣化の進行を導いた。第 8 表は、1992~1999 年の耕地面積および播種面積の推移を示したものであるが、耕作放棄地の拡大が明瞭にみとれる。

このような耕作放棄地は、年月の経過とともに、再利用が困難となる。また、再利用のための労力は、地域によって大きく異なる。例えば、降水量が比較的多く、かつ集約的な農法が行われていた地域(中央地区、中央黒土地区、北カフカース地区等)における耕作放棄地の拡大は、将来的にもより深刻な影響を及ぼす。このような地域における耕作放棄地は、年月の経過とともに、雑草の繁茂、灌木の自生、沼沢化が進行するからである。このような場合、その再利用は多大な支出を要するため、事実上、農業生産から脱落したものと考えて良い。その反面、比較的安価に再利用が可能なのが、降水量の少ないシベリア、ウラル、沿ヴォルガである。ただし、これらの地域では、粗放的な農法が主体となっているため、地力の回復により長期間の時間を必要とする。こうした特異性を考慮して、地区別の耕地・播種面積の推移を示したのが、第 9 表である。

土壌劣化は 1990 年代に加速し、極めて深刻な状況になっている。例えば、水分過剰ないし

は沼沢化した農用地は1990～1997年の間に1900万ヘクタールも増加し、4400万ヘクタールに達した。これは全ロシアの農用地の約20%にも相当する。さらに実際に浸食を受けているか、浸食の危険性の高い農用地は1997年に1億1600万ヘクタールに達した。これはロシアの全農用地の57%に相当する。沿ヴォルガ、北カフカース、ウラルといった穀倉地帯に限定すると、その比率は60～95%にも達しているという⁽¹⁰⁾。

V おわりに

CIS 農業は1990年代末以降、回復基調に転換しつつある。ただし、改革以降の耕作放棄、土壌劣化は、CIS 農業の現状のみならず、その将来を制約する要因となりうる。というのは、農業の交易条件が好転しても、耕地上の制約から生産増が抑制されるという事態が想定可能だからである。この意味で、農業生産の粗放化のひきおこした耕作放棄地の増加および耕地の脱落は、CIS 農業の将来にも大きな損失を左右しかないのであって、今後の動向に対して、より注意深い観察が必要とされている。

注(1) Народное хозяйство СССР в 1990 г., М., 1991, стр.467.

(2) FAO Yearbook vol.45 1991, Rome, 1992, pp.3,13.

(3) なお、放牧地(пастбища)と採草地(сенокос)の違いは単純であり、採草地のうち、刈り取りに不向きな土地(繁み、谷間、小森等)が放牧地に分類されている。

(4) 野部公一(1994)「フルシチョフ期におけるソヴィエト農村の変化——ソフホーズの動向を中心として——」『ロシア史研究』第55号、7～8頁参照。

(5) «АГРО Информ», 2001 № 2, стр.14-15.

(6) Народное хозяйство Узбекской ССР 1990, Ташкент, 1991, стр.237.

(7) K. Nobe(1994)“Agricultural Policy and Trade Developments in the Central Asian Republics of the Former Soviet Union in 1993-1994”, OECD, Paris, 1994, pp.6-7.

(8) «Казахстан: Экономика и жизнь», 1996 № 5, стр.21-22.

(9) Там же.

(10) «Экономика сельскохозяйственных и перерабатывающих предприятий», 1999 № 11, стр.16-17.

第1表.CIS 諸国における農用地の推移

単位:百万ヘクタール

	1992年	1993年	1994年	1995年	1996年	1997年	1998年	1999年	2000年	増減
アゼルバイジャン	4.2	4.2	4.3	4.3	4.3	3.5	3.4	4.5	4.6	0.4
アルメニア	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	NA.	NA.	NA.	NA.	0
ベラルーシ	9.3	9.2	9.3	9.3	9.3	9.2	9.2	9.2	9.1	-0.2
グルジア	3.1	3.0	2.9	2.9	2.9	2.9	3.0	2.9	2.9	-0.2
カザフスタン	180.0	181.3	179.2	173.9	161.6	137.6	120.1	98.3	86.4	-93.6
クルグズスタン	9.8	10.0	9.5	7.5	6.7	5.0	4.6	4.5	4.8	-5
モルドバ	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	0
ロシア	210.6	210.1	209.2	209.6	208.4	206.2	195.2	197.6	197.0	-13.6
タジキスタン	4.2	4.2	4.2	4.3	4.2	4.2	4.1	4.2	4.1	-0.1
トルクメニスタン	32.2	32.3	40.7	40.5	40.5	NA.	NA.	NA.	NA.	8.3
ウズベキスタン	25.6	25.4	24.8	23.7	23.5	20.1	20.0	NA.	NA.	-5.6
ウクライナ	39.6	40.4	40.8	40.8	40.7	40.7	40.4	40.3	38.4	-1.2
単純総計	522.5	524	528.8	520.7	506	431.9	402.5	364.0	349.8	-172.7
暫定値*	522.5	524	528.8	520.7	506	473.8	444.4	425.9	411.7	-110.8

資料: 10 лет СНГ, М., 2001, стр.174, 223, 275, 318, 364, 420, 473, 527, 579, 618, 661, 707.

注.*ここでは、資料のない年の数値は、最終年のそれで代用している(アルメニア・トルクメニスタン=1996年,ウズベキスタン=1998年).

第2表 CIS 諸国における耕地の推移

	単位:百万ヘクタール									
	1992年	1993年	1994年	1995年	1996年	1997年	1998年	1999年	2000年	増減
アゼルバイジャン	1.6	1.6	1.6	1.6	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	0.1
アルメニア	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	NA.	NA.	NA.	NA.	0.0
ベラルーシ	6.0	6.1	6.2	6.2	6.2	6.1	6.1	6.1	6.1	0.1
グルジア	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.0
カザフスタン	35.4	34.6	33.4	31.7	28.7	25.9	22.8	19.7	19.4	-16.0
クルグズスタン	1.3	1.3	1.3	1.2	1.2	1.2	1.2	1.3	1.4	0.1
モルドバ	1.7	1.7	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	0.1
ロシア	130.0	129.5	128.4	127.6	126.0	124.5	121.6	120.9	119.7	-10.3
タジキスタン	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.7	0.7	0.7	-0.1
トルクメニスタン	1.3	1.4	1.6	1.6	1.6	NA.	NA.	NA.	NA.	0.3
ウズベキスタン	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.0	NA.	NA.	-0.1
ウクライナ	31.2	32.7	33.0	33.0	32.9	32.7	32.4	32.1	31.4	0.2
単純総計	214.7	215.1	213.5	210.9	206.3	199.6	193.1	185.1	183.0	-31.7
暫定値 *	214.7	215.1	213.5	210.9	206.3	201.7	195.2	191.2	189.1	-25.6

資料: 10 лет СНГ, М., 2001, стр.174, 223, 275, 318, 364, 420, 473, 527, 579, 618, 661, 707.

注.*ここでは、資料のない年の数値は、最終年のそれで代用している(アルメニア・トルクメニスタン=1996年,ウズベキスタン=1998年).

第3表.CIS 諸国における播種面積の推移

	単位:千ヘクタール							
	1991年	1992年	1993年	1994年	1995年	1996年	1997年	1998年
アゼルバイジャン	1473	1357	1395	1264	1208	1207	N.A.	N.A.
アルメニア	416	396	386	358	352	348	N.A.	N.A.
ベラルーシ	6038	6005	5979	5992	6150	6180	6207	6167
グルジア	683.5	571	469	442	453	453	598	616
カザフスタン	34936	34840	34060	31662	28680	25644	N.A.	N.A.
クルグズスタン	1280	1265	1258	1248	1200	1194	N.A.	N.A.
モルドバ	1717	1711	1780	1716	1741	1737	N.A.	N.A.
ロシア	115500	114600	111800	105300	102500	99600	96600	91700
タジキスタン	821	812	794	780	758	796	809	828
トルクメニスタン	1235	1247	1324	1461	1494	1405	N.A.	N.A.
ウズベキスタン	4200	4222	4230	4236	4165	4007	4116	N.A.
ウクライナ	32021	31263	31263	31008	30963	30061	N.A.	N.A.
計	200321	198289	194738	185467	179664	172632	N.A.	N.A.

資料: CHF '98, M., 1999, стр. 131, 177, 226, 262, 304, 355, 405, 454, 502, 536, 576, 619.

第4表.CIS 諸国における耕地・播種面積の推移(1992~1996年)

	1992年	1993年	1994年	1995年	1996年
耕地面積(百万ヘクタール)	214.7	215.1	213.5	210.9	206.3
播種面積(百万ヘクタール)	198.3	194.7	185.4	179.7	172.6
差(百万ヘクタール)	16.4	20.4	28.1	31.2	33.7
播種/耕地(%)	92.4	90.5	86.8	85.2	83.6

第5表.CIS 諸国における穀物播種面積の推移

単位:千ヘクタール

	1991年	1992年	1993年	1994年	1995年	1996年	1997年	1998年
アゼルバイジャン	651	633	709	637	609	639	N.A.	N.A.
アルメニア	152	181	206	176	175	184	N.A.	N.A.
ベラルーシ	2606	2698	2714	2720	2692	2671	2718	2645
グルジア	291	277	256	257	260	281	437	416
カザフスタン	22753	22596	22250	20710	18878	17188	N.A.	N.A.
クルグズスタン	557	576	624	586	560	616	N.A.	N.A.
モルドバ	837	747	911	830	929	911	N.A.	N.A.
ロシア	61800	61900	60900	56300	54700	53400	53600	50700
タジキスタン	232	264	279	255	265	384	419	407
トルクメニスタン	240	330	435	588	657	628	N.A.	N.A.
ウズベキスタン	1080	1212	1280	1538	1664	1740	1822	N.A.
ウクライナ	14670	13903	14305	13527	14152	13428	N.A.	N.A.
計.	105869	105317	104869	98124	95541	92070	N.A.	N.A.

資料: СНГ '98, стр. 131, 177, 226, 262, 304, 355, 405, 454, 502, 536, 576, 619.

第6表. CIS 諸国の播種に絞める穀物の比率の推移

単位:%

	1991年	1992年	1993年	1994年	1995年	1996年	1997年	1998年
アゼルバイジャン	44.2	46.6	50.8	50.4	50.4	52.9	NA.	NA.
アルメニア	36.5	45.7	53.4	49.2	49.7	52.9	NA.	NA.
ベラルーシ	43.2	44.9	45.4	45.4	43.8	43.2	43.8	42.9
グルジア	42.5	48.5	54.6	58.2	57.4	62.1	73.1	67.5
カザフスタン	65.1	64.9	65.3	65.4	65.8	67.0	NA.	NA.
クルグズスタン	43.5	45.5	49.6	47.0	46.7	51.6	NA.	NA.
モルドバ	48.7	43.7	51.2	48.4	53.4	52.4	NA.	NA.
ロシア	53.5	54.0	54.5	53.5	53.4	53.6	55.5	55.3
タジキスタン	28.3	32.5	35.1	32.7	35.0	48.2	51.8	49.2
トルクメニスタン	19.4	26.5	32.9	40.2	44.0	44.7	NA.	NA.
ウズベキスタン	25.7	28.7	30.3	36.3	40.0	43.4	44.3	NA.
ウクライナ	45.8	44.5	45.8	43.6	45.7	44.7	NA.	NA.
計	52.8	53.1	53.9	52.9	53.2	53.3	NA.	NA.

資料: CHF '98, стр. 131, 177, 226, 262, 304, 355, 405, 454, 502, 536, 576, 619.

第7表.カザフスタンにおける耕地・播種面積の推移

	1992年	1993年	1994年	1995年	1996年	1997年	1998年	1999年	2000年	差異
耕地面積(百万ヘクタール)	35.4	34.6	33.4	31.7	28.7	25.9	22.8	19.7	19.4	-16.0
播種面積(百万ヘクタール)	34.8	34	31.7	28.7	25.6	21.8	18.6	15.3	16.2	-18.6
耕地-播種(百万ヘクタール)	0.6	0.6	1.7	3.0	3.1	4.1	4.2	4.4	3.2	2.6
播種/耕地(%)	98.3	98.2	94.9	90.5	89.2	84.2	81.6	77.7	83.5	

資料: Сельское хозяйство республики Казахстан, 1997, стр.29, Сельское, лесное и рыбное хозяйство Казахстана 1998, стр.47, Статический ежегодник Казахстана 2000, стр.268

第8表.ロシアにおける耕地・播種面積の推移(1992~1999年)

	1992年	1993年	1994年	1995年	1996年	1997年	1998年	1999年
耕地面積(百万ヘクタール)	130	129.5	128.4	127.6	126	124.5	121.6	120.9
播種面積(同上)	114.6	111.8	105.3	102.5	99.6	96.6	91.7	88.3
耕地-播種(同上)	15.4	17.7	23.1	25.1	26.4	27.9	29.9	32.6
穀物播種面積(同上)	61.9	60.9	56.3	54.7	53.4	53.6	50.7	46.6
穀物播種/全播種(%)	54.0	54.5	53.5	53.4	53.6	55.5	55.3	52.7
穀物播種/耕地面積(%)	47.6	47.0	43.8	42.9	42.4	43.1	41.7	38.5

資料: Сельское хозяйство России, М., 1995, стр. 158-160, 167-172, Сельское хозяйство в России, М., 1998, стр. 180-186, 201-203, Сельское хозяйство в России, М., 2000, стр. 200-207, 221-223.

第9表.ロシアの地域別の耕地・播種面積の推移

単位:千ヘクタール

	1990年	1993年	1995年	1997年	1999年	差異
北部地区						
耕地	1377.7	1373.2	1357.9	1334.3	1260.9	-116.8
播種	1318.3	1281.2	1223.5	1180.6	1098.9	-219.4
未利用地	59.4	92	134.4	153.7	162	102.6
播種/耕地(%)	95.7	93.3	90.1	88.5	87.2	
北西地区						
耕地	1855.0	1826.7	1802.4	1758.5	1666.0	-189.0
播種	1796.2	1635.5	1470.2	1409.6	1284.9	-511.3
未利用地	58.8	191.2	332.2	348.9	381.1	322.3
播種/耕地(%)	96.8	89.5	81.6	80.2	77.1	
中央地区						
耕地	14547.2	14273.4	14138.0	13827.1	13350.3	-1196.9
播種	13735.9	12942.8	11751.7	11006.1	9683.9	-4052.0
未利用地	811.3	1330.6	2386.3	2821.0	3666.4	2855.1
播種/耕地(%)	94.4	90.7	83.1	79.6	72.5	
ウオルガ・ウイヤトカ地区						
耕地	7544.6	7454.8	7323.3	7187.8	6924.4	-620.2
播種	6789.2	6503.4	5894.9	5756.0	5403.9	-1385.3
未利用地	755.4	951.4	1428.4	1431.8	1520.5	765.1
播種/耕地(%)	90.0	87.2	80.5	80.1	78.0	
中央黒土地区						
耕地	10777.0	10676.7	10580.1	10430.7	10216.2	-560.8
播種	10008.4	9713.4	9013.2	8740.5	7931.6	-2076.8
未利用地	768.6	963.3	1566.9	1690.2	2284.6	1516.0
播種/耕地(%)	92.9	91.0	85.2	83.8	77.6	
沿ヴォルガ地区						
耕地	24669.1	24338.2	24225.2	23378.1	23161.8	-1507.3
播種	21188.5	20304.1	18481.6	17431.7	15495.4	-5693.1
未利用地	3480.6	4034.1	5743.6	5946.4	7666.4	4185.8
播種/耕地(%)	85.9	83.4	76.3	74.6	66.9	
北カフカース地区						
耕地	16027.8	15500.1	15659.6	15505.0	15161.8	-866.0
播種	14428.4	13728.9	12981.4	12154.3	11665.9	-2762.5
未利用地	1599.4	1771.2	2678.2	3350.7	3495.9	1896.5
播種/耕地(%)	90.0	88.6	82.9	78.4	76.9	

(続く)

(続き)

ウラル地区						
耕地	22439.4	22155.7	22040.8	21595.6	20910.5	-1528.9
播種	20070.3	18916.9	17774.0	17208.8	15553.1	-4517.2
未利用地	2369.1	3238.8	4266.8	4386.8	5357.4	2988.3
播種/耕地(%)	89.4	85.4	80.6	79.7	74.4	
西シベリア地区						
耕地	19514.4	19304.2	19084.2	18728.0	18342.8	-1171.6
播種	17418.6	16710.9	15598.5	14484.6	13975.9	-3442.7
未利用地	2095.8	2593.3	3485.7	4243.4	4366.9	2271.1
播種/耕地(%)	89.3	86.6	81.7	77.3	76.2	
東シベリア地区						
耕地	9478.7	9169.8	8133.8	7750.4	7153.5	-2325.2
播種	7642.7	7060.9	5918.4	5114.7	4403.1	-3239.6
未利用地	1836.0	2108.9	2215.4	2635.7	2750.4	914.4
播種/耕地(%)	80.6	77.0	72.8	66.0	61.6	
極東地区						
耕地	3191.9	3077.0	2896.2	2657.4	2350.3	-841.6
播種	2892.4	2637.9	2083.5	1752.8	1564.6	-1327.8
未利用地	299.5	439.1	812.7	904.6	785.7	486.2
播種/耕地(%)	90.6	85.7	71.9	66.0	66.6	
	1990年	1993年	1995年	1997年	1999年	差異

資料: Сельское хозяйство России, М., 1995, стр. 158-160, 167-172, Сельское хозяйство в России, М., 1998, стр. 180-186, 201-203, Сельское хозяйство в России, М., 2000, стр. 200-207, 221-223.